

会社の中に“同じ人”はいらない

採用担当者の ホンネ

ウェブを活用して、アパレル業界向け情報サイトの運営やコンサルティング事業などを行っているアパレルウェブ。「簡単に言えば、“ウェブの御用聞き”。いかに顧客の店舗に誘客し売り上げを増やすか、そしてファンを増やすかを一緒に考えていく会社」と村上友美・経営企画室マネージャーは説明する。

設立は2000年。華やかにみえるファッション業界だが、それぞれの企業規模は意外にコンパクトだ。不足しがちなIT（情報技術）の専門知識に加え、業

アパレルウェブ 経営企画室マネージャー 村上友美さん



「単なるファッション好きというのではなく、それをビジネスととらえ、発展させる気持ちのある人に来てほしい」と話すアパレルウェブの村上友美・経営企画室マネージャー

11年度から総合職の新卒採用を開始した。仕事内容は「最初は主力事業となっているコンサルティングの営業が中心」。ただ、年齢や役職に関係なく活発な提案ができ、それを実現できる風通しのよさがある。積極的なアイデア発案が奏功、商品の

界を知るからこそそのセンス・情報を駆使し、増収のためのウェブ戦略を提案、顧客企業のEC（電子商取引）サイト立ち上げなどを支援する。

リ・ブランディングなどの際、ウェブデザイン以外にもモデル選定やキャンペーン企画にかかわることも増えた。

募集は大卒・大学院修了者を基本とするが、実際は「ほぼ不問」。11、12年度は各2人が入社、大阪支店での採用を始めた13年度は4人が入社予定で、うち2人が大阪組だ。14年度はプレントリーのうえ3～4月に東京と大阪で説明会を実施、参加者は応募書類を提出できる。

社内で働いている人たちは、とても「個性的」だという。ヒップホップのファッションで入社する男性や、夏でもふらっと和服で来る女性がいる。「着物

が好きで盛り上げたいという気持ち。彼女が来てから和装業界へも仕事の幅が広がった」

「会社の中に“同じ人”はいらない。自分が好きなものやポリシーがあり、それが会社の進む方向と同じであればチャレンジしてほしい」と話す。

11年の東日本大震災以降、「海外に打って出ようとするアパレル会社が増え始めた」と感じている。「海外のファストファッションが席巻し始め、国内相手だけではじり貧になるという危機感が強まった」からだ。

シンガポールに11年、実店舗貸し出しなどで海外展開を支援する「AWCG」、海外向けウェブコンサルティング「AWSG」という2子会社を立ち上げた。「『日本のファッションを世界へ』が合言葉。アパレル業界の活性化にぜひ力を貸してほしい」という。（高梨美穂子）